

*The Sinfonietta*

**ザ・シンフォニエッタ  
第21回演奏会**



*21st Concert*

写真提供: U2 Classical Recording

**2007年7月16日(月) 海の日**

開場14:00 開演14:30

熊本県立劇場コンサートホール

主催: ザ・シンフォニエッタ

後援: 熊本県 熊本県教育委員会 熊本市 熊本市教育委員会 熊本日日新聞社  
NHK熊本放送局 RKK TKU KKT KAB 熊本シティエフエム FMK



## Program

テレマン作曲

ヴィオラ協奏曲ト長調 ヴィオラ独奏 小野 富士

ショスタコーヴィチ作曲／バルシャイ編曲

室内交響曲Op.83a (原曲：弦楽四重奏曲第4番)

～ 休 憩 ～

ベートーヴェン作曲

交響曲第3番変ホ長調Op.55「英雄」

指揮 小野 富士

## ごあいさつ

本日は、「ザ・シンフォニエッタ第21回演奏会」にお越しいただき、誠にありがとうございます。私どもは昨年3月に「創立20周年記念 第20回演奏会」を開催し、新たなステップを踏み出したところです。また昨年11月の「モーツァルト生誕250年記念 合志市演奏会」におきましては、遠路にもかかわらず昼夜合わせまして1000人のお客様にご来場いただきましたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、本日の指揮者、小野富士氏は、NHK交響楽団、モルゴーア・クアルテットのヴィオラ奏者として活躍される傍ら、アマチュア演奏家のご指導にもたいへん熱心な素晴らしい音楽家です。ザ・シンフォニエッタとのお付き合いも20年近くになり、トレーナーまたはソリストとして、更に前回からは指揮者としてお世話になっています。今回の演奏曲目もすべて小野氏の魅力が十分に発揮されるプログラムとなっております。(曲目解説をご参照ください)

テレマンのヴィオラ協奏曲では、小野さんご本職のヴィオラを堪能することができます。オーケストラは普段の小編成を更に縮小し、弦楽器20名。そしてチェンバロも加わり、バロック音楽を作り上げます。ショスタコーヴィチの室内交響曲は熊本初演で、今後も演奏される機会はほとんどないと言ってもいいでしょう。ベートーヴェンの英雄交響曲は8年前に出版された新版の楽譜を使用しています。聴き手には旧版との違いはほとんどわかりませんが、第1楽章ではコントラバスのピチカート的位置が1拍違うというところもあります。

最後になりましたが、臨時トレーナーを引き受けてくださいました九州交響楽団コントラバス奏者の深沢功氏、在熊フルート奏者の大村友樹氏に深くお礼を申し上げます。

それでは皆様、本日の演奏をごゆっくりお楽しみ下さい。

ザ・シンフォニエッタ代表 歳田 和彦

## Profile

指揮・ヴィオラ 小野 富士

Hisashi Ono



1955年福島市生まれ。3歳からヴァイオリンを始める。

'81年、東京芸術大学音楽学部器楽科ヴィオラ専攻卒業。ヴィオラを加宮令一郎、中塚良昭、ウルリヒ・コッホ、菅沼準二の各氏に師事。

'81年7月から'85年12月まで東京フィルハーモニー交響楽団に副首席ヴィオラ奏者として在籍。

'86年5月、第21回東京国際音楽コンクール弦楽四重奏部門で“斎藤秀雄賞”受賞。

'87年3月NHK交響楽団入団、同年10月から同楽団フォアシュペラー。

'92年、“モルゴーア・クアルテット”結成に参画。

東芝EMIより“モルゴーア・クアルテット ショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲集”vol.1～3、加えて1970年代のブリティッシュロックを弦楽四重奏にした“ディストラクション”を発売。

'98年1月、モルゴーア・クアルテット・メンバーとして第10回“村松賞”受賞。

2005年4月、マイスター・ミュージックからモルゴーア・クアルテット“ボロディン：弦楽四重奏曲集”を発売。

ソロ活動としては'82年、'91年、'95年、'2005年に東京でリサイタルを開催。

'97年5月から2000年8月までの40カ月間に渡り、弦楽専門誌“ストリング”に連載した《おのふじびおらデラックス》を、2005年1月、単行本として「レッスンの友社」から刊行。

2000年4月から2006年3月まで東京芸術大学非常勤講師を勤めた。

2006年9月、モルゴーア・クアルテット・メンバーとして第一生命ホールで「ショスタコーヴィチ生誕100年記念演奏会」を開催。ショスタコーヴィチの誕生日9月25日を挟んだわずか3日間で、弦楽四重奏曲全15曲を演奏し、話題を呼んだ。

管弦楽 ザ・シンフォニエッタ

The Sinfonietta

1986年に結成された小編成のアマチュア・オーケストラ。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなどの古典派の曲を中心としながら、ロマン派、近代の曲も演奏している。

これまでに共演した主な音楽家は、指揮者では本名徹二氏、山下一史氏、岩村力氏、藤崎凡氏、ソリストでは安永徹氏（ベルリン・フィル・コンサートマスター）、O.ボルヴィツキー氏（元同Vc）、堀正文氏（N響コンサートマスター）、篠崎史紀氏（同）、小野富士氏（同Vla）、小林道夫氏（Cemb）、若林顕氏（Pf）などで、素晴らしい指導者・共演者に恵まれて充実した活動をしている。

1989年1月の第3回演奏会では、山下一史氏、安永徹氏、O.ボルヴィツキー氏との共演を果たし、超満員の聴衆にTV放送もなされ、大きな話題となった。

2004年11月にはNHK-BS2「おーいニッポン熊本」に出演し、熊本城での演奏が全国に生放送された。2006年3月、第20回の記念演奏会を開き、今後ますます充実した活動を目ざしている。

8～10ヶ月の間隔で演奏会を行っており、アマチュアでも時間をかけてひとつひとつの曲をじっくり丁寧に仕上げれば充実した演奏ができる、という信念で活動している。



写真提供：U2 Classical Recording

## 曲目解説

指揮／ヴィオラ独奏 小野 富士

### テレマン

#### ヴィオラ協奏曲ト長調

シンフォニエッタとは去年の11月に指揮者として共演しましたが、「定期もまた振ってほしい。せっかくならヴィオラも弾いてほしい。」と頼まれ、それならヴィオラの音色も聴けてそんなに長くなく、また指揮者がいなくてもできる曲、ということでこの曲を選曲いたしました。

テレマンのヴィオラ協奏曲ト長調は、音楽史上初のヴィオラ協奏曲という記念碑的な作品です。テレマンというとあまり馴染みがないかも知れませんが、当時はヨハン・セバスチャン・バッハよりもはるかに有名で偉い人でした。そのことは、ライプツィヒの教会楽長が亡くなったときに、まずハンプルクの都市音楽監督をやっていたテレマンに後継を依頼し、それが断られたので、オーディションでヨハン・セバスチャン・バッハを教会楽長にしたという話でもお分かりいただけると思います。

この曲は1楽章と3楽章がゆったりしていて、2楽章と4楽章が速い構成になっています。1楽章と3楽章では、音符と音符の間に装飾を施す当時の慣例に倣って、あちこちに装飾を増やして演奏します。

### ショスタコーヴィチ／バルチャイ編曲

#### 室内交響曲Op.83a（原曲：弦楽四重奏曲第4番）

この曲は、ショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲第4番を、ヴィオラ奏者で作曲や指揮もするルドルフ・バルチャイがオーケストラ用に編曲した曲です。彼は作曲をショスタコーヴィチに習っていたこともあり、編曲した時には必ず本人に見てもらっていたようです。多忙なショスタコーヴィチは時間の合間を縫ってその弟子の編曲を見てあげたそうです。

私が所属するモルゴア・クアルテットで、以前、バルチャイにこの弦楽四重奏曲第4番のレッスンを受けた時、ちょっと面白いエピソードがありました。

第4楽章のすごい勢いで弾く箇所に「meno mosso（メノ・モッソ=ちょっと遅く）」と書いてあるのでそのように演奏したところ、バルチャイが「どうしてそこ遅くするんだい？」と言うので「ここにちょっと遅くと書いてあるんです。」と言うと、彼曰く「いや、そんな記憶はない」と言います。私達が使用していたのは日本で出版されていた譜面で、それはベートーヴェン弦楽四重奏団（ショスタコーヴィチのほとんどの弦楽四重奏曲を初演した弦楽四重奏団）がショスタコーヴィチと話し合いながら書き込んだことも印刷してある譜面だったのです。ベートーヴェン弦楽四重奏団の第一バイオリン奏者はだんだん演奏が速くなる癖がある人でしたが、ショスタコーヴィチはそれを直接言えないくらい、とても人に心配りをする人だったのでmeno mosso「少し遅くしてください」と書くことによって、同じテンポで演奏できるように書いたのであろうという結論にいたり、皆で大笑いしたことがありました。



第1楽章は、たいまつ<sup>たいまつ</sup>の火が燃えている所にみんなが集まってくるような風景が見える楽章で、第2楽章はもの悲しいゆっくりしたワルツ。第3楽章は無窮動的な楽章（速い動きの同一音型が始めから終わりまで間断なく続く楽曲）で同じことが繰り返される。第4楽章はファゴットから始まり、その後カリンカというロシア民謡のフレーズが出た途端、メロディが始まります。そのメロディは、ショスタコーヴィチがユダヤ人の音楽にすごく共感していて、そのユダヤのメロディを引用したと言われています。それが発展していつて曲を閉じます。

管楽器の使い方もなかなかおもしろく、打楽器も珍しい楽器が出てくるので、普段聴き慣れないようなサウンドが楽しめると思います。

### ベートーヴェン

#### 交響曲第3番変ホ長調Op.55「英雄」

今回この曲を取り上げた理由ですが、もしも私にウィーンフィル<sup>ただ</sup>を無料で振らせてくれる話があるなら真っ先にこの曲を選びたい、とかねがね思っているくらい好きな曲だからです。

それはさておき、この曲はベートーヴェンが音楽史上に革命を起こした曲の一つで、最初に変ホ長調の主和音たった二発だけで曲が始まり、長大な第1楽章はいろいろな発展を遂げます。

第2楽章「葬送行進曲」は、ベートーヴェンがこの曲を捧げようと思っていたナポレオンに失望して、「ナポレオンに捧ぐ」と書いたところを削除したという逸話があります。「葬送行進曲」というと、日本人の感覚ではずっと短調でいくように思いますが、西洋人であるベートーヴェンは、途中陽が差してくるような長調にして懐の深い音楽にしています。

第3楽章は、革命を起こした曲として特筆すべきことがあります。それは速い3拍子で演奏する「スケルツォ」、これもベートーヴェンが開発したひとつの形なのですが、その「スケルツォ」と「スケルツォ」の間に挟まれた部分に「トリオ」という部分があります。このトリオこそ、まさに時代を先取りしたような見事な音楽です。ホルン3人の活躍をぜひお聴きください。

第4楽章は非常に単純なテーマからどんどん変奏していきます。ベートーヴェンは自らピアノの即興演奏や変奏の天才でした。第4楽章はその才能がいかに発揮された楽章です。

途中にチャルダッシュというハンガリー音楽がありますが、それは当時ハプスブルグ家がウィーンのみならずハンガリーなどを支配下においていたので、ウィーンにいたベートーヴェンもハンガリーのジプシーの音楽を取り入れたものと思われます。

いろいろな変奏が終わった後の非常に安らいだゆったりしたところの後、再び壮大な音楽が展開し、最後は疾風怒濤の如く終わってしまうという、クラシック音楽の、あるいはベートーヴェンの音楽の醍醐味が全て詰まっているような曲です。50分程の長い曲ですが、どうぞ最後まで目と耳を使ってお楽しみください。

## Member

### コンサートマスター

廣瀬 卓

### 第1 ヴァイオリン

井手本裕律子

浦中有紀

大宮伸二

定永明子

多賀直彦

東家容子

富奥史子

松本晋弥

### 第2 ヴァイオリン

大宮協子

岡本侑子

清永育美

清永健介

瀬畑健雄

多賀美紀

山口みゆき※

山口祐子

### ヴィオラ

和泉希代子

磯部哲也

太田由美子

田代典子

辰野陽子※

中澤康子

毎床一寿

### チェロ

坂本一生

関 栄

瀬畑むつみ

東家隆典

裕本幸二

馬原ひろみ

### コントラバス

桑原寿哉※

竹内尚志

歳田和彦

### フルート

泉由貴子

中澤邦男

### オーボエ&

イングリッシュホルン

松本聡子

吉田千草

### クラリネット&

バスクラリネット

福島由貴

府高明子

### ファゴット

上田 宏

柴田義浩

### ホルン

伊藤友美

奥羽朋子※

川崎華奈

坂口 学※

田中禎子※

### トランペット

出口文教

福島敏和

### パーカッション

木野里子※

高宗邦子

### チェンバロ

篠原いずみ※

### トレーナー

山本俊之

※は賛助出演

## 次回演奏会のお知らせ

### ザ・シンフォニエッタ 第22回演奏会

と き: 2008年5月11日(日)

14:00開場 14:30開演

ところ: 熊本県立劇場コンサートホール

指揮・ピアノ: 若林 顕

曲 目: モーツァルト/ピアノと管弦楽のためのロンドニ長調K.382

ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第5番変ホ長調作品73「皇帝」

ベートーヴェン/交響曲第7番イ長調作品92

## 主催者からのおねがい

- 1 ホール内での喫煙、飲食はかたく禁じられております。
- 2 携帯電話等の電源、また、時計のアラームをお切りください。
- 3 小学生未満の方のご入場はご遠慮ください。  
また、お子様がお静かにできない場合は、2階「親子室」をご利用ください。
- 4 演奏が始まりましたら、ホールの移動、座席の移動をお控えください。

以上、気持ちよい演奏会にするために、ご協力お願いします。

本日は、ザ・シンフォニエッタ第21回演奏会にご来場いただきまして、誠にありがとうございました。